

簡易ガスライターによる事故

事故の概要

【事例①】走行中の車から出火し、全焼した。

【事例②】引き出し式の衣装ケースの中から発火した。

【事例③】たばこに点火後、ライターをシャツの胸ポケットに入れていたら火が出て、腕や指にやけどを負った。



事故の原因

【事例①】車の電動シートの位置を移動したところ、シートレールの上に落ちていたライターの着火レバーが押されたものです。

【事例②】衣装ケースの中のガスライターが、引き出しの出し入れの際に金属製小物入れ等の雑貨にひっかかったため、着火レバーが押されたものです。

【事例③】残火(写真)がシャツに燃え移ったものです。



【再現実験より】

残火：着火レバーから指を離しても火がついている状態



事故防止のために

- ◆子どもに触らせないでください。
- ◆子どもの手の届く所に置かないでください。
- ◆ライターは安全基準に適合したものをご使用ください。
- ◆着火レバーとノズルネジの間にごみなどの異物が挟まると残火の原因となるので取り除いてください。ふたのないタイプは、特に付着しやすいので注意してください。
- ◆机の中等で保管する場合は、引き出しの開閉に伴って着火レバーが押されないように注意してください。
- ◆車のダッシュボードの上やガスコンロ、ストーブの近くなど、高温になる場所や火を使う場所には置かないでください。

